

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年 3月 31日

【評価実施概要】

事業所番号	0173501008		
法人名	天理教本輪西分教会		
事業所名	グループホームタンボガ		
所在地	室蘭市石川町202番地 (電話) 0143-50-2255		
評価機関名	北海道社会福祉協議会		
所在地	札幌市中央区北2条西7丁目1番地		
訪問調査日	平成20年2月22日	評価確定日	平成20年3月31日

【情報提供票より】(19年12月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成14年10月21日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	17 人	常勤 11人, 非常勤 6人,	常勤換算 15.7人

(2) 建物概要

建物構造	木造平屋 造り	
	1階建ての	1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	39,000 円	その他の経費(月額)	15,000 円
敷金	有(円) 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) 無	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり		1,200 円

(4) 利用者の概要(2月22日現在)

利用者人数	16 名	男性 1 名	女性 15 名
要介護1	6	要介護2	2
要介護3	8	要介護4	0
要介護5	0	要支援2	0
年齢	平均 88.8 歳	最低 78 歳	最高 93 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	日鋼記念病院・三村病院・高橋歯科クリニック
---------	-----------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当事業所は、母体法人が高齢者ケアハウス事業所を設立計画の際、地域福祉のニーズを重要視し、市からの依頼を受けて平成14年に開設された。事業所名称の由来である「幸運を知らせる花のごとく、幸せを提供する場所でありたい」との思いのもと、利用者が楽しく豊かな心で生活できるよう、一人ひとりの人格を尊重し、全職員が一丸となって日々のケアサービスを実践している。また、施設長は職員育成の重要性を認識しており、職員一人ひとりの課題研究テーマのもと、研鑽を積み更なる質の向上に努めている。

【重点項目への取組状況】

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回評価における課題であった「緊急時の対応」については、全職員が救急救命講習を受講するとともに、看護師を配置するなど体制を整え、改善に取り組んでいる。また、「栄養バランス」について栄養士の指導を受けるなど課題を真摯に受け止め、サービスの質の向上に努めている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>項目ごとに全職員で話し合い、意見交換を行いながら自己評価に取り組んでいる。また、外部評価の結果をサービスの質の確保や、向上に役立てている。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)</p> <p>2ヶ月に1度、運営推進会議を開催し、事業所の運営状況やケアサービスの実状等について報告し、意見交換を行っている。また、ターミナルケアに関する方針の説明や、地域密着型サービスとしての意義や役割等について検討している。その結果、キャラバンメイトへ講師を派遣するなど、事業所の機能を地域に還元する取り組みを行っている。</p>
	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)</p> <p>事業所内部に苦情相談窓口を設置し、利用者本人や家族が意見・要望・苦情等を伝える体制を整えている。また、家族会を設置し、来訪時や電話連絡をした際に、家族が気軽に意見等を話せるよう工夫し、日々のケアサービスや事業所の運営に反映させている。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>町内の行事に参加したり、近隣住民から野菜の差し入れがあるなど、交流が深まりつつある。また、地元のボランティアを受け入れたり介護相談を受けるなど、事業所の機能を地域に還元する取り組みを行い、地域との連携を図っている。</p>

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念の共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「地域に開かれた介護で、利用者が楽しく豊かな心で生活できる支援」を盛り込んだ独自の理念をつくりあげ、利用者主体の支援を行っている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ミーティング時やユニット会議で理念について話し合い、共有しながら日々のケアサービスに活かしている。また、職員のネームプレートの裏面に理念が記載されており、職員間で共有しながら、ケアサービスを実践している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入し、祭りや老人会等の行事に参加したり、近隣住民から畑で採れた作物の差し入れがあるなど、交流が深まりつつある。また、地域からの高齢者福祉に関する相談の受け入れ等を通じ、地域との連携を図ることを検討中である。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員一人ひとりが自己評価を行い、会議で意見交換を行い施設長がまとめるなど、全員で取り組んでいる。また、施設長が評価の意義・目的の周知を図り、職員は日々のケアサービスを振り返り、課題や気付き等を探り入れサービスの更なる質の向上に取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	平成18年から定期的に運営推進会議を開催している。市内の6事業所が同一日時・場所で開催した後に、全体会議を開催するなど、会議を活かした取り組みを行っている。		
6	9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	当事業所は、市内のグループホーム連絡会の窓口として市の担当者と連携を取り、協働しながらともにサービスの質の向上に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	事業所便り・季刊誌・行事の際の写真などを定期的に家族に送付し、利用者の様子や健康状態等について報告している。また、受診後はそのつど受診結果を家族に伝え、金銭管理についても定期的に報告し、内容を明確にしている。		
8	15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	家族会を設置し、家族が意見・要望等を伝えやすい工夫をしている。また、事業所内部の苦情相談窓口を設置し、入居時に家族に説明している。	○	今後は、外部にも意見や苦情等を表出できるよう外部の苦情相談窓口を設置し、重要事項説明書に明示することが期待される。
9	18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	異動等があった場合は、引継ぎ期間を十分に設け、利用者のダメージ緩和に配慮している。また、運営者は職員が働きやすいよう労働環境の整備を図り、職員が定着して利用者との馴染みの関係を築きながら、ケアサービスを実践し続けられるよう努めている。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>運営者は職員育成にも熱心に取り組んでおり、具体的の方針を立てて実施している。内部研修を実施の際には、職員間でテーマを掲げて研鑽を積むとともに、年に1度全職員が外部研修を受講できるよう体制を整えている。</p>		
11	20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>運営者は同業者との交流や連携の重要性を認識しており、他事業所との運営推進会議の合同開催や、勉強会等を開催している。また、広域グループホームのネットワークに参加し、サービスの質の向上に努めている。</p>		
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>事前に利用者本人・家族に事業所見学や面談等を勧め、利用者が事業所の雰囲気馴染めるよう配慮している。また、職員は利用者の生活歴や心情に配慮し、家族と相談しながら信頼関係を構築できるよう努めている。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>職員は利用者とともに生活する中で、生活の知恵・技・文化等について教えてもらっている。また、利用者が職員にねぎらいの言葉をかける場面があるなど、互いに支え合う関係を築いている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1.一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>家族から収集した情報や、日々の気付き等について職員間で共有し、一人ひとりの希望や意向の把握に努めている。表出が困難な場合は、非言語的コミュニケーションも交えながら本人本位となるよう支援している。</p>		
2.本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>センター方式のアセスメント表を活用し、ミーティング時やカンファレンスで気付きや課題等について話し合い、家族の意見を取り入れながら介護計画を作成している。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>6ヶ月ごとの介護計画の見直しを行うとともに、月に1度カンファレンスを実施している。また、毎日のミーティングにおいて、利用者の状態変化等について話し合い、変化があった場合は、現状に即した新たな介護計画を作成している。</p>		
3.多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>本人・家族の状況に応じ、通院時の送迎や外出の際の付き添いなど、柔軟な支援を行っている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者それぞれの入居前からのかかりつけ医への受診支援を行っている。また、協力医療機関からの往診を受けたり、いつでも相談できる体制を整えているとともに、職員に看護師を配置し、通院記録書・往診連絡書を使用し、医師・家族との情報伝達や連携を図っている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	早い段階から、重度化・終末期に向けての対応について話し合い、方針を定めている。また、家族に説明し、同意を得ている。また、マニュアルを整備し、家族や協力医療機関とそのつど話し合い、意向を確認しながら情報を共有している。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は、利用者の誇りを傷つけることのないような言葉かけや対応を心がけている。また、個人情報保護に関する取り扱い細則が整備されており、法令を遵守し、プライバシー確保の徹底を図っている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員は利用者の体調や心情を考慮し、一人ひとりのペースを大切に支援を行っている。また、職員の見守りのもと、飲酒を楽しむ利用者もおり、一人ひとりの希望に沿って過ごせるよう努めている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の希望や力を活かし、調理の下ごしらえ・食器拭きなどの作業を、職員と一緒にやっている。また、おやつ時には絞った牛乳を提供したり、事業所の菜園で収穫した食材を使用するなど、食事が楽しみなものになるよう工夫しながら支援している。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	夜間帯を除き、曜日・時間帯など利用者の希望に応じた入浴支援を行っている。また、状況に応じてシャワー浴・清拭を実施するとともに、言葉かけ等を工夫し、利用者が安心して入浴を楽しめるよう支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	家事・菜園・カルタ・音楽鑑賞など、利用者の力や好みに応じた、役割や楽しみごとの支援を行っている。また、インストラクターを招き、レクリエーション活動を行うなど、日常的に心身活性に配慮し、支援している。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩・日光浴・果物狩りなど、様々な場所に外出する機会を積極的に設けている。また、事業所のテラスから繋がる庭を有効に活用し、日常的に五感を刺激できるよう支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	防犯上の理由から夜間帯は施錠している。また、玄関にセンサー・鈴を設置するとともに、職員間で見守りの連携を図り、日中は鍵をかけずに、安全に過ごせる工夫をしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に2回、消防署の協力のもと日中を想定した避難訓練を実施している。また、食料を備蓄し、緊急時に備えている。	○	今後は、緊急時に地域住民から協力が得られるよう働きかけるとともに、夜間を想定した避難訓練を実施し、災害時に備えることが期待される。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の一日の食事・水分摂取量を毎日記録しており、職員間で情報を共有している。また、職員が考案した献立を栄養士に確認してもらっており、栄養バランスのとれた食事内容となっている。	○	今後も栄養バランスを考慮し、献立の更なる工夫が期待される。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間の広いテラスからは庭が眺められ、明るく落ち着いた雰囲気有している。また、和室が設置され、季節に応じた飾りつけにより、温かみや季節感を感じられるよう配慮している。また、ユニット間の廊下は回廊式であり、利用者同士が自由に行き来できるよう工夫している。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には利用者が使い慣れた生活用品や、思い出の品等が持ち込まれ、本人が安心して過ごせるよう工夫している。また、本人や家族の意向を確認し、一人ひとりの希望に応じた居室づくりに配慮し、本人が居心地良く過ごせるよう支援している。		

 は、重点項目。